

小姓正吉の長女

前略申免下さしませ。いつとも無沙汰
に打り過ぎ矢孔致しつゝ長ります。

皆縁地所あるさしをいうやりますか。又日
は美しカードと有難う御さいます。

何かりお紙申上げて良しか。一寸お共暮
かうゴメン。新まきカードも矢孔しつゝ

しよんやしが。実はスイスに居りすゝた美
姉(仲子)が昨年八月に病死致しす。

正明兄がモシカ多うの關係でもう三年程
スイスに居ります。御存存と思ひます。

皆健康で幸々一杯に暮しつゝ長りました
と云う。昨(年)春頃より姉の腎臓で

病い一月も入院しつゝ居りすゝり良
た。又三度療養しつゝ居りすゝた。

又再々しつゝまゝに再入院。四五日の
で帰らぬ人と云ふまゝに。

くちうの母は一時は作らりと弱
し。毎日嘆き暮しつゝ居りすゝた。暮の

二十三日にありふり見と子供達二人が姉の
お骨下持ち帰り。二十六日に近くお骨を

盛大に本葬儀を取行いすゝた。ほつ
新(母)とえ終り取戻す。又のお墓

に納骨も済ませ一月の十三日に今迄は

母も伴う四人して再びスイスへ帰る行き
ました。 母にきて欲しくは見えなくも電話

ありました。 母は孫達の成長に
上りようとして即答して下さるが
見もその声で聞かす元氣を取り戻し

少しは落着いたと語って居りました。
その移り変わりを年老いた母が再び外国

生活を送る中になり直明兄がまた
一人として居りますので、私共一取四人

(小さい二人は行きません) 草子峠から越して
冬になりまして、母達の帰ります頃迄三四年

留守番と兄の面倒をみる中になりま
した。

母が早くお知りでする程に申しつけて居り
ます。 母の皆が去る程に近頃は落着かなく又

お正月も早々この程に知らずにはいつか
思ひ延々と居ます。 又日又

国際電話が入り、母も母も元氣に
居り仰る程に知らずにはいつか

他をやり居安心下さる。 ありは
寒い国に居る中、室内はいつも千四

ほど大変暮らして良さを居ます。
もしお暇のお暇を下さるに

住所下あ知りせ申上作ます故あ手紙より
あより頂けます水信女もいんばの喜ぶ
事と申します。あ暇の前は平年よりしく
あ願ひ申上作ます。

語しが前後致し取り扱ひ文であ恥し
限りてま平年一節判読下りませ。
大乳致すましくた。

平年あ何程はしり皆々様にようしく
あ位え下りませ。 昌子様はピアノの力

と申し続々遊ばさ水由子様は純粋
でいうしやいませ。 定年老人も今高枝

の音楽教師を新し取り自宅で小まゐ子
供さん方にはピアノを教え取りコースなども
新しと申します。

さほくはぐも片自居の程あ新し申
上作ます。 ぶきげんよりしく

一月二十日

かきこ

武田昌三様

小野屋登美子

Mrs. Kimi
Kobayashi
Ave. Kriegel-72
Geneva, Switzerland